

『「キッズ伝統芸能体験」10年の軌跡』出来

この春、標記の冊子が発行された。副書名は「子供の未来をひらく」。根底にあるのは、「これから生きる子どもたちには伝統芸能が必要だ」という、10年の経験から得た確信である。全体は、「写真でたどる稽古と発表会」と「インタビュー」を両軸に、実施概要・講師一覧をまとめた「記録」からなる。

さまざまなシーンで見せる子どもたちの表情は、最も雄弁に、この体験の意義と価値を伝える。地道に時を重ねる稽古と、ひと時に集中して力を出し切る発表会。ジャンルごとの雰囲気の違い。伝統芸能の多彩な魅力が浮かび上がる。

インタビューでは、修了生の“その後”をナマの声を通して追跡するとともに、各界のトップランナーが伝統文化について語る。前半は6組の修了生と家族、先生の声。日本を世界に伝えたいと語る双子の兄弟、稽古を続けている男子と女子、体験をきっかけに進路を見つけた女子大生、新たな自分を発見した男子等々。子どもたちの柔軟な感性と測り知れない可能性に圧倒される。彼らの言葉を補完するために、昨夏に実施した修了生アンケートの結果も添えた。

特別インタビューは、コシノジュンコ、十三代中川政七、ロバートキャンベルの三氏。斯界を代表する人たちならではの「普遍の真理」が、強い説得力を放つ。ことに、キャンベル氏の「自ら言葉を発することは、一番、生の神経に触れる」という発言は、心の奥深くに刻み込まれた。

この事業が10年にわたり続けられたのは、関係諸機関の協力はもちろん、実演家とそれぞれの専門領域を支える数多くのプロたちの力があってこそ。それらすべての原動力は、伝統芸能への敬意、誇り、愛情。そして、子どもたちの未来への希望であることは確かである。



キッズ伝統芸能体験とは

東京都・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が、公益社団法人能楽協会・公益社団法人日本三曲協会・公益社団法人日本舞踊協会・一般社団法人長唄協会の制作協力下に主催している事業。

子どもたちが一定期間にわたり、伝統芸能の一流の実演家から直接指導を受け、最後にその成果を本格的な舞台で発表します。「本物体験」を通じて、日本人が大切にしてきた伝統文化への理解を深め、その心を次世代へ継承することを目的としています。東京2020公認文化オリンピック認証事業。www.geidankyo.or.jp/kids-dento

※本書の内容は、4月下旬にウェブサイトでも公開する予定です。

☆2018年度参加者募集中(6/6締切)